

医療福祉活動演習（福祉）【チーム医療コース】

[講義・演習] 第5学年 後期 選択

[授業方法：SGD、PBLを含む]
1単位

《担当者名》教授 / 平野 剛
講師 / 早坂 敬明 助教 / 山本 隆弘

【概要】

チーム医療とは、多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することとされている。

本演習においては、患者が入院してから退院するまでの時間経過を理解し、医療現場での各専門職種の連携を体験するとともに、薬学専門性を活かした薬剤師の職能について、SGDによる事前学習、演習活動報告発表会による事後学習を含めた一連の演習を通じて総合的に学ぶこととする。

【学修目標】

チーム医療に参加する意義や目的を説明できる。

チーム医療における薬剤師の役割、薬物療法の実践及び患者安全や守秘義務に関する基礎知識を身につける。

医療人として、適切なコミュニケーションの能力を身につける。

グループ学習を通じて、課題をまとめ発表するプレゼンテーション能力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	チーム医療における薬剤師の役割	● 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 ● 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 ● 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 ● 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 ● チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(1)- 2、A-(1)- 3、A-(4)-1、A-(4)-2、A-(4)-3	平野 剛
2	処方設計と薬物療法の実践	● 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。 ● 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。 ● 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- 7、F-(3)- 1、F-(3)- 3	早坂 敬明
3	処方設計と薬物療法の実践	● 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(3)- 1	早坂 敬明
4	栄養管理	● 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。 ● 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(3)- 6、F-(3)- 5	早坂 敬明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	患者安全	●感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。 ●代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -4、F-(2)- -6	平野 剛
6) 7	チーム医療の具体例と多職種との連携	●チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。 【SGD】 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(1)- -3、A-(1)- -1～3、A-(4)-1～5、 F-(1)- -1～7、F-(4)- -1～4	担当者全員
8) 10	チーム医療の体験	●チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 ●多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 ●病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(1)- -3、A-(1)- -1～3、A-(4)-1～5、 F-(1)- -1～7、F-(4)- -1～4	担当者全員
11) 12	報告発表会	●グループ毎に施設で体験学習した内容を、発表を通じて説明できる。【SGD】 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(1)- -3、A-(1)- -1～3、A-(4)-1～5、 F-(4)- -1～7、F-(4)- -1～4	担当者全員
13) 15	チーム医療の体験	●チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 ●多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 ●病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(1)- -3、A-(1)- -1～3、A-(4)-1～5、 F-(4)- -1～7、F-(4)- -1～4	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

演習の取り組み態度（20％）、体験学習の評価（30％）、発表内容（20％）、最終レポート（30％）

なお、提出された最終レポートは、指導教員のコメントを追記して返却するので復習すること。

【教科書】

適宜プリント配布

【備考】

チーム医療を体験する病院は札幌近郊の予定であり、交通費は実費負担となる。

医療現場での演習となるので、マナーや身だしなみ、特に頭髪の色や長さ、服装には十分注意すること。

体験学習の際は、清潔な白衣、上靴を準備すること。

5年次、実務実習後の2月下旬から3月中旬を予定。

【学修の準備】

- ・チーム医療を体験する病院について、十分な自己学習を行い、積極的に講義に臨むこと（60分、2施設分）。
- ・報告発表会に向けて、各自、発表の準備をすること（120分）。
- ・体験した内容について振り返り、レポートを作成すること（120分）。

予習としては、実務実習での経験を踏まえ、下記の項目について各自調べること（60分）。

- ・チーム医療における薬剤師の役割
- ・病院に所属する医療スタッフの職名とその業務内容
- ・手術室における医薬品とその管理の重要性
- ・手術時の中止薬に関する医師からの相談内容への対応
- ・慢性疾患に対する医薬品に関する情報提供、副作用回避ならびに患者のQOL向上
- ・院内感染の回避方法と感染制御チームへの薬剤師の関与
- ・栄養療法の実践とその評価

将来、薬剤師として、「患者のために何ができるか」を考えること（60分）。

【関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標】

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命

【 医療人として】3

【 薬剤師が果たすべき役割】1～3

(4) 多職種連携とチーム医療1～5

F 薬学臨床

(1) 薬学臨床の基礎【 臨床における心構え】1～7

(2) 処方箋に基づく調剤

【 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】7

(3) 薬物療法の実践

【 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】1,3,5,6

【 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】1

【 安全管理】4,6

(4) チーム医療への参画 【 地域におけるチーム医療】1～4

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

平野 剛（薬剤師）、早坂 敬明（薬剤師）、山本 隆弘（薬剤師、看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

教科担当の3名は、病院薬剤部の実務経験者である。臨床における病院業務及びチーム医療の経験を活かし、具体的な実務薬学について講義する。